

〔平成 30 年度〕

【東京都地域医療構想調整会議】

『会議録』

〔八王子分科会〕

平成 3 1 年 3 月 6 日 開催

【平成 30 年度東京都地域医療構想調整会議】

『会議録』

〔八王子分科会〕

平成 31 年 3 月 6 日 開催

1. 開 会

○千葉課長：それでは、ただいまより「東京都地域医療調整会議八王子分科会」を開催させていただきます。本日は、急な会議の開催にもかかわらず、また、お忙しい中ご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

議事に入りますまでの間、私、東京都福祉保健局医療政策部計画推進担当課長の千葉が進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

まず、本日の配付資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、机上にお配りさせていただいております。上のほうは会議次第になっておりますが、下のほうに四角で囲ったところに配布資料の一覧を記載しております。

資料 1 から資料 4 までと、参考資料 1 ということになっております。不足等がございましたら、お気づきのたびに、お手数ではございますが、事務局までお申し出をお願いいたします。

後ほど、質疑や意見交換のお時間等がございますが、ご発言の際には、記録の関係もございますので、申しわけございませんが、事務局よりマイクをお受け取りになったあと、ご所属とお名前からお願いできればと思います。ご協力をどうぞよろしく願いいたします。

それでは、まず最初に、事務局より 3 点ほど申し上げさせていただきます。

1 点目は、本日の分科会についてでございます。

昨年 11 月 20 日に実施いたしました南多摩地域の地域医療構想調整会議におきまして、当地域の病床配分申請について、各申請者の皆さまからご説明を受け、意見交換を行わせていただきました。

その際に、「八王子市医師会との事前調整が不十分である」との意見がございました。

その後、東京都を交えまして、関係者間の調整を行った結果、今回の南多摩地域の調整会議八王子分科会を開催し、改めて意見交換を行うこととなりまして、本日に至ったものでございます。

2点目は、本日の座長についてでございます。

本分科会は、南多摩地域の調整会議の分科会ということもありますので、同調整会議の座長をお願いしております、多摩医師会の田村先生に、本日の座長をお願いしたいと考えております。田村先生、どうぞよろしく願いいたします。

3点目は、いつもご連絡ですが、会議の公開についてでございます。

本日の分科会でございますが、調整会議と同様、会議、会議録及び会議に係る資料については公開とさせていただいておりますので、ご了承をよろしく願いいたします。

それでは、これ以降の進行を座長をお願いしたいと思います。田村先生、どうぞよろしく願いいたします。

2. 病床配分申請について協議

○田村座長：それでは、早速、「病床配分申請について」の協議に入りたいと思います。

本日の流れとしましては、東京都より改めて申請の状況、11月の調整会議で出た意見について説明を受けたいと思います。

次に、申請者に説明をいただいたあと、全体で意見交換を行います。

最後に、分科会としての意見をまとめたいと思っております。

それでは、まず、東京都から説明をお願いいたします。

○西塚課長：それでは、資料2によりまして、本日の協議事項でございます「南多摩保健医療圏の病床配分の申請状況」について、まず事務局より簡単におさらいをさせていただきます。

前回、11月20日に説明したとおりでございますが、13の申請者から病床配分の申請がございます。南多摩全体で基準病床より、現在816床不足しているところ、表の一番下をご覧くださいますが、申請の合計は、現時点で711床ということで、申請が不足を下回っているという状況でございます。

それでは、この13の申請のうち7件が八王子市の医療機関でございますので、簡単にご説明いたします。

1番、医療法人財団興和会が運営する右田病院です。一般36床を拡張いたしまして、地域包括ケアとして、回復期として利用したいというご計画です。

2番、医療法人社団葵会が運営する南八王子病院です。前回から計画の変更がございました。計画では、八王子市内で平成32年4月、移転、開設を予定し、現在、76床ある病床に、新たに療養74床を拡張し、合計150床の病院として開設したいというものでございます。

全て慢性期として利用いたします。前回から計画の変更があった点でございますが、病床の規模を、前回、療養124床拡張するとしていたところ、50床削減し、74床に減らすという変更でございます。

これによりまして、トータルの病床数が慢性期200床ということだったのですが、慢性期150床に減らしたいというご計画の変更がございました。

理由をお聞きしておりますが、開設者によりまして、前回、本調整会議において、慢性期病床の地域の需要についてご意見があったということで、そのご意見を踏まえ、病床を今回減らすことにしたということです。

併せて、整備計画についても、建物が完成した後も、八王子市や八王子市医師会等の関係機関と連携して、需要に応じて稼働していきたいというお考えも示されております。

また、人材確保計画についても、看護師の採用人数を大幅に絞り、グループ内で職員を確保する方針に変更したという変更点がございました。

詳細は、後ほど、開設者様から説明を直接お聞きください。

なお、南八王子病院の計画変更によりまして、先ほど申しあげました全体の病床申請数も、11月時点で761床だったところ、50減りまして、711床となっております。

続いて、3番、医療法人社団永生会が運営する永生病院です。一般22、療養180の、併せて202床を増床するもので、急性期14、慢性期188床に利用するという事です。

4番、医療法人社団小松会が運営する聖パウロ病院です。精神科病床を一旦返還して、療養54床を拡張し、慢性期に使用するというご計画です。

5番、医療法人社団清智会が運営する清智会記念病院です。一般22床を回復期に使用するというご計画です。

6番、医療法人社団充会が運営する(仮称)上川病院です。こちらは、既に、29年6月に、八王子市から日野市に、上川病院が一旦移転した、この跡地を再利用して、新たに、療養78床の病院を新設したいというご計画です。

飛びまして、19床以下として、11番、医療法人社団永康会が開設する、(仮称)西八王子腎クリニックです。療養19床全てを慢性期として使用して、透析を主とした療養型有床診療所として整備するという事でございます。

資料2の説明は以上です。

○千葉課長：続きまして、私のほうから、資料3のご説明をさせていただきたいと思っております。

「南多摩調整会議・病床配分に関する意見(平成30年11月20日)」ということで、先ほど申しあげましたとおり、11月20日の調整会議において出されました意見を、ポイントを絞ってまとめさせていただいた資料でございます。

大きく2つに分けておりまして、上のほうは、「病床配分の仕組み等に関する主な意見」で、下のほうは、「個別の医療機関等に関する主な意見」となっております。

まず、上の「病床配分に関する主な意見」をご説明させていただきます。

ご意見といたしましては、「圏域内で区市町村別の優先配分を求める意見」がございました。

また、「高度急性期、急性期、慢性期、回復期の4つの機能別の病床配分を求める意見」もございました。

次に、「申請者に地元自治体への事前の情報提供や調整を求めるご意見」もございました。

それから、「大きな病床配分が見込まれる地域においては、1度に病床配分をするのではなく、段階的に行うべきであるというご意見」もございました。

最後に、「800床近くの病床配分による地域への影響を懸念するご意見」もございました。こちらは、さらに3点ほどまとめさせていただいております。

「地域のことをよく知らない事業者の算入により、既にある地域連携が崩れる」ということを懸念するご意見がありました。

それから、「新しく開く病院または既存の病院の病床が埋まらずに、病院経営が破綻する」ということを懸念するご意見がありました。

さらに、「既存の医療機関の看護師確保への影響」があるという懸念のご意見がございました。

次に、下のほうの、「個別の医療機関等に関する主な意見」を、3つにまとめさせていただいております。

1つ目は、南八王子病院に対してでございます。

「八王子市医師会との事前調整がされていないことを指摘する意見」がございました。

また、「大幅な病床増（263%）による、看護師等地域のコメディカルの需給逼迫を懸念する意見」がございました。

2つ目は、（仮称）横浜町田整形外科病院に対してでございます。

「夜間休日の対応、合併症が起きたときの対応への整理を求める意見」が出席されております。

3つ目は、（仮称）稲城回復期リハビリテーション病院に対してでございます。

「既存の回復期リハビリテーション病院との分業・連携を望む意見」がございました。

簡単ではございますが、資料2と資料3をもちまして、東京都からの説明は以上でございます。

○田村座長：ありがとうございました。

これまでのところで、ご質問等を受けたいと思いますが、このあと、申請変更がありました南八王子病院さんからのご説明もございますので、その件につきましては、説明を聞いてからということでもよろしいかと思いますが、今の説明全体に関する事で、何かご質問などございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、今回、申請内容に変更がございました南八王子病院さんから、改めてその申請内容と変更につきまして、簡潔にご説明いただければと思いますので、よろしくお願いします。

○新（南八王子病院）：南八王子病院の新と申します。

お時間をいただきまして、私どものお願いをさせていただくことにいたします。

「整備区分」といたしましては、「移転・増床」ということでお願いを出させていただきました。

現在利用しております建物の老朽化が大変進みまして、昨年の夏も大変トラブルが続きまして、患者さまの安全を図るのに苦慮したという経過がございます。

そういう中で、こちらの八王子駅の北側の土地の取得を、法人ができたというお話を伺って、そこに移転をさせていただけるというお話をいただきました。

そこで、法人のほうと計画をさせていただきまして、前回の申請を出させていただいたわけでございますが、医師会の先生方からいろいろなご意見をいただきまして、今回、修正をさせていただいたということでございます。

1つは、当初は120を上乗せしたいという希望を出させていただきましたが、現実的にはいろいろ問題が多いのではないかとご指摘をいただきました。

そこで、50マイナスさせていただきまして、建物のほうも、そういうことにさせていただければ、多少ゆとりを持って、順次開設をさせていただくこと

も可能になるということで、私どももそのようにさせていただければありがたいというふうに考えております。

そして、先ほどもご指摘がございましたように、雇用計画については、この資料4に記載させていただいておりますとおり、2019年中に、現在の状況では、12名の看護師、看護助手4名、薬剤師1名を雇用させていただきたい。そして、2020年3月までに、さらに6名の看護師を募集したいと考えております。

それは、一般に、現地採用ということを中心とするのではなくて、地元の先生方にご迷惑をおかけしないように、当法人内の大学の看護学部を初めとして、看護専門学校もございますので、そこからの卒業生を採用させていただきたいということと、そしてまた、法人のEPA看護師の採用も、積極的に行うという計画でございます。

そして、今後、開設にあたりましては、医師会の先生方のご指導を受けながら、いろいろ勉強させていただきたいと考えております。

そういうわけで、想定する病床の増加は、74床の増加ということで、現在の76床を併せて、トータルで150ということをお願いをさせていただきたいということでございます。

そして、資料4の「病床稼働率」は92.93%となっておりますが、これは、11月20日現在の稼働率でございました。現在は98.86%で、76床中75床でこのところ入院していただいております。

以上でございますので、よろしくご審議をいただければと思います。

○田村座長：ありがとうございました。

ただいま、南八王子病院からのご説明がありました。

それでは、意見交換に移りたいと思います。この意見交換の最後に、調整会議八王子分科会としての意見をとりまとめたいと思っております。

それでは、ただいまのご説明を踏まえまして、ご質問、ご意見などございましたらお願いいたします。

とりわけ、この南八王子病院さんの新規増床に伴って、いろいろ影響のある八王子の病院の先生方から忌憚ないご意見が伺えるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

○横山（清智会病院）：清智会病院の横山です。

会を活発化するために、ちょっと私見を述べさせていただきます。

八王子は、長い伝統がございまして、この20年ぐらいの間は、2大学の塀が非常に低いという中で、私ども35の、八王子市の病院が非常に仲良くやっっているというような環境が、20年は続いているというような思いでございます。

そういう中で、ぜひ仲良く、この和を乱さないようにお願いしたいと思えますし、南八王子病院さまにおかれましても、その辺は十分に理解を賜って、仲良くやっっていける連携に入れるのかどうか、また、入るにはどう考えていかなければいけないのかというようなところも、少しご検討いただきたいと思えます。

あしたも、八王子市医師会の会長のご配慮のもと、八王子市医師会所属の全病院がお集まりいただくということがございます。10年ぐらいございますが、出席者数は68%ぐらいで推移しているというような歴史がございます。

そういう中で、35の病院がございますので、本当にその気はなくても、やはり、お互いに従業員の方たちの多職種連携の和が乱れるのではないかとということで、その辺のご配慮も非常にいただかないと、本当にまずい結果になるのではないかと考えております。

また、一方におきましては、もう20年ぐらいになると思いますが、国の施策として、200床の減少という施策があったように覚えております。

そういう中で、今度は800というような増床、また、他方におきましては、労働者不足ですとかいうような現状の中で、どのように私どもの既存の病院が生き残っていけるのでしょうか。

それは、何が一番困るかということ、患者さんが困るのですね。1つの病院がなくなるということは、非常に長い間の患者さんの流れがあって、各病院において、その資料というものが、法律的には、最終受診日から5年間は保管しろ

という形で、当院におきましても、本当に10畳ぐらいの部屋にカルテがいっぱい詰まっております。まだ電子化で整理をしきれていないのですが、そういうような現状がございます。

ですので、例えば、私どもが潰れるようなことがございますと、非常に多くの患者さんの資料が散ってしまうというようなこともあります。

そういうような形の中で、本当に35の八王子の病院に新しくご参入いただくのであれば、それなりの、何と言うのでしょうか、「人の道」と言うのでしょうか、そういうものをしっかりと葵会も、法人として対応いただいた上で、医師会にお入りいただければありがたいと思っております。

以上が、ちょっとした私の思いでございます。

○田村座長：ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○孫田（八王子市医師会）：八王子市医師会の孫田です。

葵会の方々にお伺いしたいこともあるんですが、今回の一件で、地域医療を協力してやっていきたい、なおかつ、医師会にも入るといったことだったんですが、これは、新（アヲシ）先生が院長としてお見えになって、若干の変化があるかもわかりません。

ただ、今まで、医師会と南八王子病院は全くコンタクトがなかったです。この数年間は、地域医療を考えなかったのか、あるいは、医師会の一員としてチームを組んでやっていこうという意思がなかったのか、という点が1点です。

それから、院長が新先生に代わられて、院長の権限というのは、葵会の中でどのぐらいあるのか。もし可能であればお聞かせいただきたいと思います。

○田村座長：ありがとうございました。

孫田先生からのご指摘、あるいは、葵会さんからの見解を求めたいということがございましたが、私のほうからも、問題点はいくつかあると思いますので、できれば整理してお答えいただけるとありがたいと思います。

真っ先に出てきましたのが、八王子の既に活動、活躍している医療機関との協調関係、協力関係をどのように築いていくのかということです。医師会に入会したいというご意思を伺っておりますが、さらに踏み込んで、こういった形で協力関係を進めていくおつもりかということ、なるべく具体的に聞かせていただけるとありがたいと思います。

それと、実際にどういう形でこの八王子という地区で、南八王子病院さんの存在を活かして、この地域のために貢献しようというふうにお考えなのか。

それは、この地域の病床の過不足の認識、あるいは、病床の機能の認識、ベッドが十分足りているのかいないのかということと、それとは別に、「このベッドはたくさんあるけれども、この機能を果たす病院がないので、そこを担う」というような形で、積極的な形で、具体的にこの八王子という地域の中で、こういった役割を果たしていこうというふうにお考えなのかということ。

それから、もう一つは、先ほどの新先生のご説明の中にもありましたが、病院で働くスタッフが、資格職以外の職も含めて、今非常に不足しています。

葵会さんが病院を開設するときに、そのスタッフの募集によって、地域の病院が非常に影響を受けるのではないかという、かなり深刻な危惧を抱いているようにも聞いております。

新先生のご説明の中で、そういったことを避けるために最大限の配慮をするというお話もあったかと思いますが、それに対して、さらにご説明があると、話が前に進むかなというふうな気がいたします。

私のほうで、質問内容を少し膨らませてしまいましたが、順次お答えをいただくと、話が非常に前に進むかと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

○新(アタシ)(南八王子病院)：孫田先生からいただきました2つのご質問の中で、最初のほうの質問は、私のほうからお答えすることができると思いますが、2つ目のほうは、法人の方がいらしていますので、そちらにお願いしたいと思います。

当院に赴任する以前、数年間あったんだと思いますが、その時代に病院をお預かりしていた方が、「医師会には行きたくない」というご意見をお持ちであったように思います。

そういうことで、病院が隔離するような立ち振る舞いをわざとしたということではなくて、何も積極的にアプローチしなかったし、医師会にお願いして入会させていただくという努力もしなかったというのが、私が感じたところでございます。

そこで、私、こちらに寄せていただきまして、そういうことではなかなかやっていけないだろうから、ぜひ医師会の先生方のお顔を見ながら、いろいろ教えていただきながら、当地での医療を担いたいと思っております。

そして、担うといいましても、何でもかんでもうちで吸引してしまうごとく、患者集めをするのではなくて、現在、私どものスタッフが比較的得意としておる呼吸器の管理ということを中心にやらせていただければ、大変ありがたいと思っております。

私、こちらに参りましてから、いくつかの急性期の施設を訪問させていただきまして、状況を伺いますと、「一般の慢性期のベッドでは取っていただけないような方を、おたくは取っていただいているようなので」ということでしたので、「今後ともよろしくお願ひします」というご挨拶をさせていただいた経緯がございます。

そういう意味で、これからどのぐらいのニーズがあるかということ、私どもは試算をして、綿密な計画を立てたわけではないと思うのですが、そういったところの、なかなか行き場がすぐ決まらない患者さまをお預かりさせていただくことができれば、多少は貢献させていただくことができるのではないかと考えている次第でございます。

それから、やはり、求人に関しましては、規模が小さくなれば、当然、その数も減るわけでございます。そして、その募集の仕方ですが、可能な限り、「ぜひ来たい」という方をお断りすることもできないのですが、こちらから積極的に近隣の、八王子市内の在住の方を掘り起こしたりといったことはしないようにということで、これは、現場で十分できることだと思っております。

また、ホームページ等に載っている求人の企画は、法人全体の求人欄に直結しておりますので、私どものところで、必ずしもそれを利用しているというわけではございません。

もちろん、全くゼロにできるかという点、その点のところにつきましては、状況いかになるかと思いますが、決して引き抜きをするというようなつもりではございませんので、その点はぜひご了承いただければ大変ありがたいと思います。

地元の先生方と隔絶してやろうということを考えて、やっていたのではないかと、私も考えておりますし、私はそういうつもりは全くございませんので、よろしく願いいたします。

では、院長の権限について、法人のほうからお答えさせていただきます。

○小宮（南八王子病院）：葵会東京本部企画部長の小宮と申します。

孫田先生からご質問のありました院長の権限につきましてですが、うちの法人におきましては、各地方、その土地でいろいろ状況が違うものですから、地域の方針で運営に携わる全てのものにつきましては、基本的に院長先生の責任のもと、院長先生の指導で行っていただいております。

法人としての大きな部分はありますが、各病院ごとの運営方針と実際の連携を含めた動きというものにつきましては、院長先生に全権を委託している形でございます。

○田村座長：それと、先ほど、私がちょっと聞きたかったことは、この地域に病床の過不足がどのぐらいあるのか。南多摩地域全体に関しては、東京都の試算によって、今回、「816認めましょう」ということですが、それは、さまざまな計算方法で、「この地域にはそれだけのベッドが必要だ」ということで、出てきた数字かとは思いますが。

ただ、南多摩地域は非常にいろいろなセグメントに分かれておりまして、八王子、町田、日野、多摩、稲城といったところで、それぞれの事情があることも、実際に病院を開設されていると、お気づきになっているのではないかと思います。

その中で、八王子に関して言えば、ベッドが非常にたくさんあって、それぞれの病院がベッドが埋まらなくて、非常に苦勞しているというような話を、断片的ではございますが、聞くこともございます。

それから、機能の面で、新先生のお話の中で、例えば、呼吸器疾患というお話がありましたが、これは、人工呼吸器に乗っているということなのか、そういった患者さんを積極的に受けることで、地域の中の需要に貢献しているというようなご説明がございました。

そういった部分で、もう少し、南八王子病院さんがこの地域の中で、「こういった部分ではプラスに貢献できる」ということをお話しいただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

○渡邊（南八王子病院）：南八王子病院の統括部長の渡邊と申します。よろしくお願いたします。

現在、南八王子病院は、その地域の中で、療養病床がたくさんあるということも存じ上げております。その中で、当初、76床をどう特化していくかというところでは、皆さまの地域には迷惑をかけないようにということで、呼吸器というところを、そこは、アクセスの問題から考えても、76床でしたら、都心からもそういう呼吸器の患者さまの受け入れということで、かなり連絡を頂戴していたものですから。

ですので、当初から呼吸器をやっていたわけではなく、通常どおり、受け入れ困難な患者さまに対して受け入れを徐々に進めて、今の病床数が埋まっていたということでございます。

ですので、今後に関しても、できましたら、例えば、呼吸器をつけながら、地域に戻れるような仕組みとか、また、地域でそういう医療度の高い患者さまに、何かがあったときに、夜間帯でもちょっと入院できるような仕組みということを、医師会さま、ほかの自治体さまと協議をしながら、段階的にお入れしていこうかなというふうな考え方です。

ですので、私が、法人の理事長のほうにも、当院のことでは連携が取れてなかったものですから、そのことを十分ご説明させていただいて、理事長も、患

者さまのためにどうしていきべきかということも、それをまず考えて、今回、病床数をちょっと減らせていただいたということです。

この先も、例えば、今は呼吸器をしています、呼吸器をしながら在宅に戻したり、また、在宅の患者さんが一時的にでも当院に安全に入院していただいたり、そういうレスポンスというのでしょうか、そういうのを繰り返しながら、またそこで、どうしてもそこにまつわる処置が必要になった場合、例えば、透析とか、呼吸器だけではなく、何かの処置が必要になったときも安全に受け入れられるような状況をつくっていきたいと思っております。

○田村座長：私は理解をしたつもりですが、1点、どうしても誤解があるというのでしょうか、まず、病床を確保してから、その使い方を考えるというふうな考え方になっていないかということです。

やっぱり、必要だから病床を増やす。そのことについて地域の中でコンセンサスが得られると、葵会さんは経営体力もある医療法人というふうに思いますので、そういったところで貢献してくださると、実際に医師会に加入されて、コミュニケーションが取られ始めていけば、地域の中で頼もしい仲間の病院というふうな認識が得られるかと思えます。

ただ、70床以上のベッドを増床して、その70床をどう使うのか。先ほどのお話の後段にございました、在宅医療をバックアップするとかいったことを、スムーズにやっていくというのは、どの病院も必死で取り組んでいる事柄だと思えますので、これは、特徴というよりも、前提というふうに考えなければいけないかと思うんです。

その辺について、少し説得力のあるご説明があると、膠着した感じが変わるかなと思った次第です。

それでは、当事者の病院の先生方、あるいは、実際に病院を運営しているところ以外の方々、保険者とか他の診療科の方々もいらっしゃるかと思えますので、その辺を含めて議論が深まればと思えますが、いかがでしょうか。どうぞ。

○堀米（三愛病院）：三愛病院の堀米と申します。八王子の慢性期医療の地域包括のほうを担当しております。

私のところの病院は、介護療養型の病院で、病床稼働率が97%行くか行かないか。一時はもっと悪いような数字でした。

ほかの病院の意見を聞きましても、介護療養病床については満床にならないというふうな感じで、我々の肌感覚としては、慢性期の病床が足りないという感覚はほとんどなくて、むしろ、患者さんを集めるのに必死になっているという状況なんです。

そういうところへもってきて、最初に200床というのは、「え?!」というような数字が出てきて、その辺が一つのきっかけになったことはあったんです。

もう一つは、葬会の本部のほうにも関係することだろうと思うんですが、新聞ダネにもなるような、葬会そのものの内部体質に関係しているのじゃないかと思うような記事が、いくつか見られます。

その辺の、葬会としての経営姿勢というか、そういうものに、我々としては非常に疑問を持つところがあるんです。

それが、我々が「ちょっと待てよ」と言ったことになっている大きな原因にもなっているわけです。

もう1つ、先ほど、新先生が言われましたように、看護師の募集をできるだけ自分のところでやりたいということですが、今も、こうしてネットを開くと、「南八王子病院、看護師大募集」の記事が大々的に出ています。そして、いろいろな条件を示しながら、既に募集を始めているというのが現状なんです。

当然、我々のところにいる看護師さんたちよりも条件をよくして、聞く話によると、「源泉徴収票を持ってきてください」というような言い方をして、「それ以上の給与を出すから」というふうな、生々しい話も伝わってきています。

そういう意味で、まず、法人の姿勢をどういうふうにしていくのか。それから、今言ったような看護師の募集について、もっと別の考え方があるのかどうか。それから、田村先生が言われたように、病床数の不足感がないということに対する考え方をお伺いしたいと思います。

また、先ほど説明された、困ったときに受け入れをしているというお話は、大変嬉しい話で、確かに、「我々のところではもうどうにもならない。うちではとても取れない」というような患者さんがいますので、そういう患者さんを

受けてくれるという考え方に対しては、大変嬉しいなと思いますが、根本的なところの解決策を示していただきたいと思います。

○田村座長：今のご意見に対していかがでしょうか。どうぞ。

○小宮（南八王子病院）：ありがとうございます。

いろいろな記事で葵会の名前が出てということですが、法人の姿勢としては、その地域、地域の医療、福祉も含めて、そういったところに貢献する、「患者さん第一」という考え方でやっております。

記事は皆さん、ご承知だと思いますが、川崎の医療ツーリズムだとかいうことを言っておられるのじゃないかと思っています。

ただ、あれに関しましても、これから国際的な部分になっていくということで、ああいう提案をしたんですが、法整備とかの関係がいろいろございまして、今回は時期尚早ということで、一度引かせていただくような形になりました。

お騒がせしたことは、まことに申しわけないと思っておりますが、そういう意見を出したからこそ、そういったいろいろな意見を頂戴することになったということもございます。

医療ツーリズムにつきましては、国のほうとしても、これから進めていくという形での方針もあったものですから、そういう形で計画を提示したというような形でございました。

ですから、基本的に、法人の姿勢という形としては、その地域、地域の人たちが健康で幸せに暮らせるようにということが、うちのモットーで、それに基づいて、各地域の状況に合わせた医療を進めていくというのが姿勢でございます。

特に、今まで、こういった形で八王子市におきましては、医師会さんや病院協会さんとの連携が取れてなかったことは、まことに申しわけございませんでした。今後は、そういったご指導のもと、ご意見をいろいろ拝聴しながら、協調、連携というものを進めてまいりたいと考えております。

○渡邊（南八王子病院）：堀米先生、ご質問ありがとうございます。

病院を預かっている私としましては、緊急時の夜間の診療に関しても、無防備ではよろしくないので、療養病床においても、やはり、それなりの当直の医師の補充、そして、いつでも受け入れられるような、看護師の待機。

当院の従業員は、全て地方から、または、違う地域から従業員を集めて、こちらの八王子市のほうにみんな住まいを持たせて、寮も設けていません。

それは、やはり、地域のことを職員も知っていくために、住まいも全てこちらに移していただきたいということもありまして、そういうスタッフが結構指導していますので、その方たちの次の移転先の病院に関しては、当直体制、待機体制というのを、確実にしていきたいと思っております。

また、現在も、76床の病床で、呼吸器ということが、どうも医療度的に最先端を行ってしまうのですが、本当の南八王子病院の基本的な姿というのは、意識があろうとなかろうと、第一線の治療を受けた方が、廃人のようになっていることが、うちの従業員としては納得できないところでございます。

ですので、八王子市の中で、70床でも、一生懸命生き抜いて、最先端の医療を受けた方々が、“安楽の地”というのでしょうか、そういうことができる病院があることが、看護師さんたちにとって、満足する専門職業人として、寄り添うことで、最終の看取りのところまでできるような、そこまでの間は、やはり、ケアミックスというのでしょうか、そういう質というところを、寄り添うということを大事にして、医療のほうの提供ができないかなというところで、やらせていただいているので、これから先も、そういう意味で、増床を協議させていただければと思っております。

当然、今も地域の医療機関さまとは医療連携を取らせていただいておりますので、医療連携の数も結構多くなっておりますので、そのままを続けていこうかなと思っております。

あと、雇用の件に関しては、大々的に募集をしているつもりは、私の中にはないです。「源泉徴収票を持ってきてください」ということですが、私も当初担当していましたが、そういうことではなく、ハローワークさんに出している金額の中で、それ以上出せるだけの余裕はございません。

寮もございませんので、その補助というところも、それほど、当院では、76床の中では、そんなに多くは出してないです。

また、葬会の中のEPAの外国人の看護師に対しても、このところ、外国人の方をお入れするのにも、寄り添える介護をするために、少し教育が必要ですので、今は少し早めに雇用のほうを進めさせていただいて、教育のほうをしっかりと、事故のないように、皆さまに迷惑がかからないように、どうにかさせていただいていますが、その先は、医師会さまのほうに入らせていただいて、お勉強の視野も広げさせていただければと思っております。

○田村座長：ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○安藤（東京都病院協会・八王子市医師会）：安藤でございます。私の立場は3つありまして、東京都病院協会と地区医師会の代表と、八王子市の医療機関の回復期の代表ということで出席させていただいております。

国の大きな政策というのは2つあって、1つは地域医療構想と、もう1つは地域包括ケアだと思っております。地域医療構想というのがあって、この調整会議というのがあって、ざっくばらんに話していけるとというのは、非常に有意義ではないかと思っております。

東京都病院協会の立場としては、都内の中小民間病院は非常に経営が厳しいという状況でございます。医療審議会の中でも、県外法人が東京に来て、回復リハの病床の4分の1とか3分の1ぐらいを取っていってしまうとなると、中小民間病院で回復期をやりたいところが取れなくなってしまったという事例が、この中で出ております。

地域医療構想の中でも、公立病院と民間病院があった場合は、繰入金が入っている公立病院よりは、入っていない民間病院を優先するというような順位があるわけです。

東京都病院協会としては、やはり、地元の中小民間病院さんが、優先して、もし地域の機能を担うとなると、まず、医療と介護は“地産地消”だと思っておりますので、優先するということが大事だと思います。

そういう中で、もし地元の中小民間医療機関でもやりきれないということに関して初めて、他の県からの法人さんを受け入れるというべきではないかというのが、東京都病院協会の姿勢でございます。

そういうことが一つ大事になってくるのではないかと考えております。

そういう中で、葵会さんの場合は、南八王子病院さんがもうあるわけですから、いきなり“落下傘”で来るわけではないわけですが、先生方がおっしゃっているのは、そういうベースがあるのであれば、まず、八王子市医師会だけではなくて、薬剤師会、歯科医師会もそうですが、多職種連携でもって、よい街づくりをしていこうというのが、大きな目標でございます。

ですので、八王子市の医療機関さんは、皆さん、自分たちの法人だけよければというのではなくて、いかに協力し合ってまちづくりをしていくかということが、大きな課題になっているわけです。

そういうふうな姿勢をぜひ理解していただいて、そうであれば、八王子市の予防接種とか健康診断とか、あるいは、さまざまな防災訓練とか研修会などに、どんどん参加していただいて、まず、仲間としてのコミュニケーションを取っていただくというのが、まず前提ではないかと思えます。

そういうふうな認識をぜひ確認していただければと思います。

そして、できれば、呼吸器もそうですが、八王子市の医療の中で不足している機能というのは、まだまだありますので、そういうところをまた話し合いの中で行っていただくと、さらにいいと思えますので、またお考えいただければと思います。よろしくお願ひします。

○田村座長：ありがとうございました。

時間もだいぶ経過してまいりましたが、ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○平川副会長：東京都医師会の平川です。

今たくさんご意見をいただきました。まずは、葵会の方々にはわざわざ来ていただいてありがとうございます。

でも、これは、すごく大事だと思います。今までは連携がなかったので、話し合うことでお互いの内容がわかるということで、非常によかったと思っています。

ただ、心情論とか感情論とかを抜きにして、純粹に計画を変更になった部分についての質問をさせていただきます。

一つは、今回、大英断だと思えますが、200床あったものを150床に減少されたということは、私も経営する立場として、病院経営にとっては大変なことだと思えますが、実際に、これから建物を建てられるわけですが、その建物は、200床の病床の病院を建てられるのか、150床の病床の病院を建てられるのか。そのあたりをお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。

○小宮（南八王子病院）：病床自体は150床ですが、余裕を持った150床という形になります。

○平川副会長：いや、そうではなくて、200床分の病院をつくるわけですか。

○小宮（南八王子病院）：200床分というか、そこまで入るかどうかわからないですが、設計のほうでやった、あそこの地域を有効活用するという形での病院になります。

○平川副会長：とりあえず、150床から始めるという感覚で捉えていいのでしょうか。将来は200床の可能性も高いということによろしいのでしょうか。

○小宮（南八王子病院）：いや、将来のことはわかりません。その地域の状況と、先ほど申しましたが、医師会や病院協会さんのお話で、連携しながら、不足している部分があれば、そういう形でやることもあるかもしれませんが、今のところは、そういうことはございません。

○平川副会長：確認ですが、200病床ぐらいのものをつくるということが、共通認識ということによろしいのでしょうか。

○石塚（八王子市医師会）：よろしいでしょうか。八王子市医師会の石塚です。

その件についてだけお伺いします。私の持っている図面をきょうはお出しになっていらっしゃらないですね。

○小宮（南八王子病院）：はい。

○石塚（八王子市医師会）：4階建ての200床をつくったときの図面と突き合わせをいたしました。全く変わっておりません。4階の病棟は、4床の病室が10部屋と個室が2つあって、2部屋は1会議室になっていますが、あとは全て「倉庫」というふうに書かれています。

この「倉庫」というふうになまえが変わっているだけというのは、どのように考えたらいいのでしょうか。

○渡邊（南八王子病院）：急ぎよ、理事長との話の中で、十分な説明をするのに時間がかかりました。建設会社さんとのやり取りの時間が間に合わなかったものですから、当初の124床の増床にあたっては、職場環境という側面から見ると、ちょっと厳しいなというところも、垣間見られていまして、例えば、更衣室であったり、外国人の方を受け入れるにあたっては、宗教的な問題とか、あと、個々の職員に関するプライベートなことを考えますと、平米数からすると、200床はちょっと厳しいのではないかということが、当初からございました。

ただ、「124床で行きましょう」ということだったのですが、今回、いろいろな会議を経て、ご理解いただいて、設計図に関しては、ちょっと時間がなかったものですから、「倉庫」ということにさせていただいたのですが、150床で、あとは職場環境の整備ということで変更のほうを、とりあえず、その4人部屋の平米数があれば、一人一人というところでのお部屋が確保できるのかなというふうに思った次第でございます。

まだ修正の段階ではあるかと思いますが、とりあえず、50床分を減らしたというのが事実でございます。

○田村座長：建物の構造についてのご質問もございましたが、ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○右田敦之（右田病院）：右田病院の右田と申します。

ざっくばらんな会議の場だというふうに伺ったものですから、あとで「ああじゃない。こうじゃない」という話になるのは嫌なものですから、率直なところをお伺いしたいと思います。

葵会さんにとって、この八王子地域というのは、当然、法人の運営をやる時には、マーケティングリサーチもいろいろかけて、進出されたわけですが、どういう地域としてこの八王子に病院をおつくりになって、なおかつ、今回、増床するという考えになられたのでしょうか。

私どものように、八王子に長くおりますと、八王子の雰囲気もわかるし、どちらの病院さんがどのようにやっておられるかというのはわかりますが、葵会さんのように、今回、こういう形で来られた法人さんというのが、どういうふうに考えていらっしゃるのか。

まして、医師会さんのほうに入っていらっしゃらないというところで、我々がすごく怖いというか、率直なところ怖いわけです。財力があるし、そういう面で、みんな戦々恐々しているわけです。これが率直な思いです。

八王子の地域というのは、確かに、こういう形で南多摩医療圏で約800床の不足病床地域になっていますが、人口当たりの病床数というのは、確かに多いんですね、南多摩医療圏の中でも。

そういう地域なのに、何ゆえに葵会さんという法人が、この八王子に降り立って、おやりになろうとしているのかということが、素直な疑問としてあるわけですが、法人のお考えをお聞かせいただければと思います。

○小宮（南八王子病院）：そうやって当法人のことを怖がられると本当に困るんですが、何もそういうことは全くございません。いろいろM&Aとかやるにしましても、うちのほうからそういう買収をやるとかいうことは一切ございません。

先方のほうから、「何とかしてくれないか」というお話があった中で、全てやっておりますので、八王子に関しましては、発端におきましては、聖八王子病院さんの経営者の方から、「何とかお願いします」という形がきっかけでした。

どこでもそうでした、ほかの病院さんと協調してやっていきたいという思いでおりますが、外から見た場合、「葬会は強引で、一方的だ」みたいに思われているか知らないですが、そういった形で見られてしまっているものですから、なかなかコミュニケーションがうまく取れないという部分がございます。

もちろん、こちらにも責任があるわけですが、そういう部分に関しましては、一切ございませんので、何なりとご意見を拝聴して、私どももできる限り地域に協力して、やっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○渡邊（南八王子病院）：右田先生、ご質問ありがとうございました。

私が南八王子病院で一番長い従業員だと思いますが、当初、私は、看護部長を任されていまして、そのときは個人病院でした。そのころは、掛札啓資という院長先生の名前で登録されていると思います。

以前の聖八王子病院のことは、申しわけないです。勉強してなくて、よそから聞くばかりで、本当にびっくりしておりますが、私が、医療療養でやりたいというお話を受けて、掛札という院長先生と始めた当初、急に体調が悪くなったということで、都庁さまにも何回も行かれていたようです。

その時点で、患者さんが24床か30床ぐらいありまして、職員のほうは40名近くいましたので、その掛札先生に、「申しわけないのですが、患者さんと従業員を守るために、どうかしてください」ということを、泣きながらお願いをしました。

その結果、何年か間を置いて、葬会グループの傘下に、平成24年に入らせていただいて、患者さんはともかくとして、中の従業員は、安全という面では、私たちはすごく安心しました。ただ、そのときは、患者さんを安全を守るために、先生も確保しなければなりませんし、安全にするにはどうしたらいいかということしか、その平成23年のころは、それしか考えていませんでした。

そのあと、葬会のグループに入ってから、白井という立派な院長先生が、私からの希望で、院長先生をお願いしたいということで、来ていただき、患者さんも従業員も安全に過ごすことができたと思っております。

ただ、5年ぐらい前から、少し落ち着いてから、地域医療に勉強会もさせていただいて、私どもが方向性としてどういうふうに八王子市のほうに参画して、お手伝いができるかというところでは、小規模過ぎて、ぎりぎりの従業員だったので、そのときは、院長先生の指示に従うということしかできませんでした。

ですが、今は、新先生を迎えて、やって、スタートラインというのでしょうか、そこに立てたのかなということで、これであれば、地域の皆さまにご迷惑をかけずに運営し、患者さん、従業員全て、安全に過ごすことができるかなというところで、最初はどこの法人ということはわからなかったのですが、すごくよくしてくれていますので、従業員も今のところは満足はさせていただいております。

これからも、安心して、余り周りを見無視してということは、私も全然考えなくて、段階を経て増床していったり、方向性を見極めて運営していくということにも、やはり、地域の医師会の皆さま、自治体の皆さまの意見を拝聴しながらやっていきたいと考えております。

○田村座長：だいぶ時間も経過してまいりました。

今の議論の中で、葬会という医療法人と地元の医師会、病院会が、信頼関係を持ってやっていけるかどうかということについての危惧というのでしょうか。葬会さんとしては、誠心誠意、そういったことに努めていかれるということ、繰り返し表明されていらっしゃるわけですが、その辺についての話がどうしてもたくさん出てきているわけです。

それについては、南八王子病院さんが、既に病院があるという状況ですので、医師会に加入して、その地域の医師会病院の方々といい関係ができるべく、これから努力を重ねていきたいという意思を表明されていらっしゃるというふうに理解しましたが、その辺はよろしいわけでございますね。

○新（南八王子病院）：はい。

○田村座長：それで、いろいろ出てきたわけですが、この病床不足という状況であるかがはっきりわからない中で、非常に力のある葬会さんが病床を

持つことによって、影響を非常に受けるのではないかということ、地域の病院の先生方がとても心配しているということが、繰り返し出てきたような気がいたします。

ここに参加しているのは、民間の経営の病院ですので、その中で、競争しながら、切磋琢磨をしながら、より優れた医療を提供することによって、患者さんも集まるし、職員も集まるといった競争環境が医療の水準を保っているという一面がございます。

ですので、葵会さんがそういった努力をすることに対して、それを否定するという気持ちで発言されてはいないと思いますが、一方で、それが、なりふり構わぬ強い状況になると、実際に共倒れを起こす可能性が高くなると思われま

す。

地域の医療機関は、競争しながらも、協調して、その結果として、地域の方々に迷惑をかけず、全体としていい仕事をしていこうという、競争と協調のバランスの中でやっていると思っています。

そういったバランスを持ってやっていただけるのか、やはり、実際になると、“腕力を発揮して” ということ言い過ぎかもしれませんが、ほかのところ実際に圧迫されてしまうと、自分のところの経営が困るというだけではなくて、そういう形で圧迫され過ぎて、経営が立ち行かなくなる医療機関が出てくるようですと、地域の中でも困るわけです。

それが、最初の問題の、葵会さんとの協調、協働関係をつくるという意味で、損なわれてしまうというような問題点が出てきているのではないかと思います。

実際に、どういう病院をつくろうかという部分について、一生懸命模索をされながら努力をするということは、どこの病院も一緒だとは思いますが、その辺について、これからいろいろ検討して頑張るという状況というふうにも受け取れたわけでございます。

今回、病床を得て、病院を刷新して、八王子でやっていきたいということで、いろいろお考えになって、申請も修正されたりしていらっしゃるわけですが、きょうのいろいろな議論を経て、病院を開くについて、さらにソフトランディ

ングを図るというふうな努力をしていただける余地があるかどうか。その辺が具体的な結論として非常に大事だと思います。

この場で、「病床を削減したので、これ以上の配慮は無理だ」というような話になってしまうのか。「何としても地域の医療機関、病院との協調関係を維持するために、さらにいろいろ工夫し、努力をして、働きかけをしていく」というお気持ちを持っていらっしゃるのか。

その辺が鍵になるかと思うわけですが、いかがお考えでしょうか。

○新（南八王子病院）：田村先生のご質問に対してですが、私どもといたしましては、私どものやり方で勝手にやるというつもりは全くございません。

私どもの病院運営のやり方というのは、例えば、「明るい環境で、スタッフの笑顔で患者さんと接しましょう」という合言葉で、現場をやらせていただいております。

もちろん、当院も中小の病院ですので、医療設備、機器等においては、周辺のちょっとした病院さまよりは低いレベルでございますので、そういった部分で、患者さま、ご家族の安心感をいただくということを目指してやらせていただいて、今日に至っております。

そういうやり方がもしよろしければ、ぜひ当院を見ていただきまして、先生方のところでも実行していただければ、さらに成績が上がっていくということも考えられますし、あるいは、先生方からご覧になって、「おたく、こんなことをやっているのは困るじゃないか」というようなことがあれば、ぜひご指摘いただいて、修正をさせていただければと思っております。

ですから、私どものできる範囲で、地元の医師会の先生方に協力をさせていただこうと思っておりますので、医師会の先生方の病院から患者さんを取ってしまおうということのようなことは、全く思っているわけではございません。

私どもが連携をしているという意味は、「もし当院に合った患者さんがいましたら、ぜひご紹介をお願いします」ということで、声かけをさせていただいているのが現実でございますので、それ以外のものではありませんので、その点はぜひご安心をいただければと思います。

○田村座長：どなたかご発言はございますか。どうぞ。

○右田隆之（右田病院）：右田病院も右田でございます。

具体的なところをちょっとお伺いしていいのかわかりませんが、南八王子病院さんは、呼吸器を非常に揃えていて、人工呼吸器に装着されている患者さんを多く診ているということは、名称が変わった時点から、そういう病院であるという認識を、私は持っています。

今回、増床するにあたって、そういった人工呼吸器を装着している患者さんを拡充して受けるおつもりがあるのかどうかということと、実際に、その需要ですね。

十年ぐらい前は、私どものところでも、人工呼吸器を着けて、療養の段階に入った患者さんの受け入れ先がなくて困ったときもありますが、実は、最近はそのようなことが余りありません。現在もそういう需要があるのかどうか。どういってお考えでおられるのかをお伺いしたいと思います。

○新（南八王子病院）：需要というご質問をいただきましたが、それは、そのときそのときのニーズに応えられるということが重要だと考えております。

ですから、今後も、そういう人だけを集めてということではなくて、そういう方も受け入れられる施設としてやらせていただくという意味でございまして、そういう管理ができないような施設でお断りになられるような方をいただいているというのが現実でございます。

ですから、そういった患者さまが、今後、各施設で受け入れが十分行き届くようになって、減ってくれば、区分の低い患者さまの受け入れをさせていただくということにならざるを得ないと思います。

そういう意味では、私どもの施設が決して特殊な施設ということではございませんので、ご理解いただければと思います。

○田村座長：それと、八王子市医師会さんのほうに確認をいただきたいのですが、今回、葵会さんの病院が医師会に加入して、地域の医療をする仲間として

認めていただきたい。今までの認識を改めてもらうべく、最大限の努力をしたいというふうな意思表示があったと思います。

医師会さん側で、医師会に加入することとか、いろいろな問題について、具体的にいろいろ考えるというお気持ちを持ってくださっていただければいいと思いますが、加入については、会長先生の一存ではなかなかできないと思いますので、会員の方々を説得して、「スタートラインにつきましょう」というふうにやってくださるというお気持ちはお持ちと考えてよろしいでしょうか。

○石塚（八王子市医師会）：八王子市医師会で会長をしております石塚でございます。

それが大変重要なところになってくるんですが、この会議の前に、「調整」というところですね。「各病院で増床を希望するところは、医師会と調整しなさい。その上でこの調整会議に書類を出しなさい」という手続きになっていたと思いますが、それが問題になっていて、私どもはまだ調整をしていないのに、ここに出てきてしまっているという問題があって、こんなふうにこじれているということなんです。

私どもとしては、今おっしゃっていたことが全部本当であれば、医師会に入っただけでことに何ら依存はないと、各会員も思うと考えております。

ただ、この件とは全く別件なんですけど、八王子は、葵会さんと過去に問題が発生したことがあります。実は、八王子の駅前のところに医療ビルを建てるといってお話があって、それがすんなり行けばよかったんですが、最後のところで、ちゃぶ台をひっくり返して、全てご破算になったということがあって、それは新聞にも載っています。

このときに主に調整をなさったのは八王子市さんで、医師会は、病院ができるという話なので、当然、いろいろアドバイスを求められて、孫田先生が会長のときですが、やっていたという事実がございます。

そういうことがあったものですから、葵会さんには、最初から不信感を持っているということがベースにございます。これは、南八王子病院さんにもお話をいたしまして、院長先生も統括部長さんもお存じなかったことでした。

今お話を伺っていると、例えば、病床配分希望についての病床の設備計画のところ、先ほど、統括部長さんから、「夜間の急な受け入れも行いたい」というお話がありましたが、病床稼働率が98.68%という状況の中で、これをどのように両立させるのか。これは至難の業であります。

ですから、言っていることと実際が乖離しているところがあるので、にわかには信じられない部分があります。

それから、雇用についても、これは、南八王子病院さんのホームページを印刷してきたものです。先ほど、ほかの先生からお話がありましたような表現ではありませんが、「正職員の方は、経験や年齢に応じて前職の給与を考慮していただきます」という記載がありまして、これは事実です。

さらに、病床の増床の割合が、分母に対して非常に多いということです。ほかの病院さんからも希望が出て、私、全部会って、図面も確認していますが、皆さんは慎重です。20床とか数十床をやるのに一生懸命やっていたら、最初に、1度に200床ということでしたので、これは、どう見ても無謀であると、私たちは考えました。

先ほどからお話が出ていますが、慢性期の病床はほぼ足りているということで、この間もお話ししましたが、過剰になってきています。ただ、基準病床ということであると、余裕が出てくるというのは確かなんです。

私どもが指導するにあたっては、厚生労働省から出されました、平成30年2月7日に出ているもので、厚生労働省医政局地域医療計画課長から各都道府県衛生主管部長あてに出ている、「地域医療構想の進め方について」というものに準拠してやっています。

また、東京都から出されている「保健医療計画」に沿う形で、病床が足りているところは、なるべくそこは増床しないということで、調整してまいりました。

また、先ほどの図面の話もありまして、この会議には出ていないのですが、調整をしている私のところに持ってきていただいた図面は、先ほど言ったように、ただ名前を変えているだけなんですよ。

ですので、平川先生がおっしゃったように、200床のものを先につくってしまっ、「150床ですよ」ということで、きょうの配分の希望については書いてあるというだけという見方もできます。

ということで、その辺が本当に信頼できるところなのかどうか。そこが見極められないと、基本的には医師会に入会していただくのは結構で、私どもがそういうお気持ちがあるのであれば、連携して一緒にやっていきたいと考えておりますが、この無謀な増床をそのままにして、「はい、どうぞ」というわけには、私はちょっとできないと思っております。

ですから、座長が先ほどおっしゃったように、「このぐらいなら安全かな」というようなところまで、もう少しお考えいただいて、その上であれば、もちろん、一緒にやっていくということは可能であると考えております。

○田村座長：ありがとうございました。

医師会の中に非常に厳しい空気があるというふうな趣旨のご発言であったと思います。

実際に、この調整会議という中で、それぞれ歩み寄れる部分を見つけて、どこかいい結論に導くために、最初から交渉の窓口を閉ざしてしまうと話ができませんので、そういう形で、いろいろ葬会さんに対して、最初から扉を閉ざさないけれども、言いたいことがいっぱいあるんだということで、いろいろお話が出たと思っております。

そういう中で、今回、申請を修正して出されてきましたが、その数字で実際に行けるのかという話と、その設計図面が200床のときと全然変わっていないので、話をそのまま受け取るわけにはいかないというお話もございました。

ですから、さらにその辺について、地域の医師会病院とうまくやっていくために、いろいろ努力をしてくださるという余地があれば、引き続き協議をしていけるかと考えております。

私が調整役として非常に心配しておりますのは、完全に話がまとまらないということで、医師会は扉を閉ざし、葬会さんは葬会さんで独自に行くということになってしまっ、そういうスタートを切りますと、最悪ですよ。

最初のボタンをかけ違えますと、五年たっても十年たっても全くコミュニケーションが取れない医療機関ということになってしまいます。

実際、広域医療法人の中で、病院ができて二十年もたっている、何ら協力関係ができないというような、非常に不幸な例もありますので、それだけは避けなければならないのではないかと思うわけです。

ですから、きょうは、前回の調整会議では聞けなかったような、忌憚のない、本音に近いお話が伺えたと思いますので、それをもとに、実際に葵会さんの病院が既にありますので、それをどういう形でうまく発展させていくのかということについて、粘り強く協議を進めていくというお気持ちがあれば、ここで話はとまらないで済むかなと思っております。

皆さまのほうからほかにございますでしょうか。どうぞ。

○孫田（八王子市医師会）：八王子市医師会の孫田です。

ちょっと確認したいと思います。着工と竣工はもう決まっているのでしょうか。

○小宮（南八王子病院）：今はこういう状態ですので、当初の予定からずれる可能性はあります。

○田村座長：ほかにかがでしょうか。どうぞ。

○横山（清智会病院）：清智会病院の横山です。

新先生には、以前からお世話になっている私があります。また、日本医大というところの人脈も、八王子にはたくさんありますので、南八王子病院は大歓迎という思いは、私どもは持っております。

ただ、大事なのは、葵会が東京で、なおかつ、悪い意味ではない保守的な八王子市医師会の非常に団結したところにお入りになるということに対して、ご一考いただきたいと思うのです。

何が一番大事なのかというと、法人の力でやろうと思っっているのではない、権力や金で何とかしようとするのではないということです。そうではなく

て、これから法人として八王子市に下りるには、新しい感覚で行かないと、葬会が金と権力で私どもを乱す。まして、八王子市医師会に所属してから、せっかく仲のいい35病院と争いが起きたりすることは、決していいことではないと、私自身は思います。

ですから、法人の方にぜひ覚えていっていただきたいのは、「南八王子病院は、新先生が院長になられているので、私たちはすごい親しみを、以前よりは持っています」というグループがたくさんいるということです。

でも、法人の姿勢というものが、やはり少し反省というか、私どもに誤解されないようにしていただきたいということです。

なお、私の病院だけで申し上げますと、やはりそういった金の力で、私どもの病院の職員駐車場を無断で買い取ろうとしたということが、現実にあります。

以前、南八王子病院が私どもの駐車場を貸してくださいという歴史がありまして、「どうぞ、お使いください」ということにしました。ところが、それから半年か1年後に、当院が二、三十年借りている駐車場を、お断りもなく、地主さんと直接交渉を始めたわけです。

その地主さんと私は、非常に親交が深かったので、「そういう話が来ましたので、ここで、お買いになりませんか」という形で、その折に私どもが買わせていただいたということです。

これは、西の法人にとっては何も問題がないのかもしれませんが、東の法人においては、人が長年借りている駐車場を、金の力でそういうことをするということは、私どもにとっては怖い法人だと思っております。

南八王子病院は怖いとは思っていませんで、皆さん、いい方ばかりだと思っておりますが、法人は怖いという事実があるということです。

そういうようなこともありますので、八王子市医師会に入るというのであれば、今までの法人の正義というものの中に、本当の正義でないものがあるのではないかとということで、それをまずご検討いただくことが、私ども35の病院がウェルカムになっていくためにまず大事ことだろうと思うのです。

私たちは、そんな権力なんかを行使していないという形で、これから一年、二年と進まれていくほうが、八王子市医師会も何となくかたくなな状況がほぐれていくのではないかと思っております。

本当にこの時代に、また、八王子という特殊な、非常に団結した医療界に舞い降りるのであれば、今までとは違う、いい言葉で言えば、西の文化と東の文化には違いがあるんだということを、ぜひ法人としてお考えいただきたいと思っております。

新先生という、みんなお世話になった恩のある先生が、院長になられたので、私どもはそれを尊重しなければいけないのですが、法人が変わらなければ、新先生にご協力はできないというようなことになってしまうので、それは、八王子市にとっても葬会にとっても、決していいことにならないと思っておりますので、東と何が違うのかということを、法人としてぜひご検討いただいて、数年かけて、私たちの医師会にお入りいただければありがたいと思います。

ぜひそれをお願いしたいと思います。南八王子病院は、新先生がいる限り、私たちはウェルカムでございますが、葬会が怖いという印象をぬぐい去らないといけないだろうと思っております。

仲良くやっていきたいので、今敢えて申し上げているということですので、これをどう法人が処理していただけるかが、非常に大事な鍵だろうと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○田村座長：ほかにいかがでしょうか。どうぞ。

○堀米（三愛病院）：三愛病院の堀米です。

非常にとっぴな話ですが、かねてからご提案申し上げていたことです。それは、跡地を買収されて、ある程度の計画が進んでいる中で、「それを元に戻しなさい」ということは、現実的な話じゃないだろうと考えています。

そこで、提案ですが、「予防医学」ということが、今非常に重きを置かれていますので、そういう意味で、病院という形ではなくて、予防医学の方面に、例えば、スポーツジムみたいなものですが、そういう方向に転換できないかということ、一つの提案として申し上げたいと思っておりますので、よろしくご検討のほどお願いいたします。

○田村座長：ほかにいかがでしょうか。土谷先生、どうぞ。

○土谷理事：東京都医師会の土谷と申します。

時間も長くなっていますので、手短にお話ししたいと思います。

こういう会議において合意形成に至るにはどうするべきかということがありますが、大事なこととして、一つは誠実さということであると思っています。

その中で、2点考えていただきたいと思うことがあります。1つは、今回の葵会さんの計画の中で、言葉尻を捉えるわけではないのですが、病床について、150床とうたってはいますが、200床の建物を建てるというのは、そうなんだろうなどはと思っています。

それに関して、「今回は間に合いませんでした」ということなんですが、では、間に合ったら図面は引き直すのか。そういうふうな点をどうしても考えてしまうわけです。

もう1つは、看護師の募集についてです。先ほどのお話では、「自分たちは内部で全うしていきたい」というニュアンスがありましたが、ホームページを見ると、明らかに近くの病院からも募集できるような状態になっているということです。

そういったことをかんがみると、誠実であるのかと言われると、私たちから見ると、不誠実な面を感じてしまうのではないかと思います。

これは、私たち医師会、病院だけではなくて、それ以上に、患者さんや家族に対して、私たちにこういう態度であれば、患者さんや家族に対してより誠実な対応をしてもらえるのだろうかということを、危惧するところです。

私から望むのは、より一層誠実な話し合いが、今後も続けられればいいのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

○田村座長：ありがとうございました。

長い時間かけていろいろ出てきました。実際に、いろいろな方のいろいろな思いを聞いていただけたということで、意義があったと思います。

実際に、今後前に進んでいくときに、とにかく、「新しいことを一切やってもらっては困る」ということになると、この先話ができなくなってしまうわけですが、むしろ、既にいろいろ準備も進めていっしやる中で、さらに一層、

どうしたらこの地域の中で、協働しながら、協調しながら、病院を運営していけるかという観点で、さらに、地元の医療機関と協議をして、いろいろな観点でのすり合わせといったものを、ぜひやっていただきたいと思います。

地元の医師会も病院も、「とにかく、話にならん」ということだと、本当にここで話が終わってしまいますが、そうではなくて、いろいろ厳しい話がたくさん出てきましたが、そういう持っていた思いを吐き出したあとというのは、どうしたら現実的な妥協点ができるかということで、“大人の智慧”というものが出てくる余地があると思っています。

きょうの話の中で、結論として、さらに葵会さんとして、地元との協調ができるように、いろいろ考えて努力をしていただければ、話が前に進む余地があるなというふうに思うわけであります。

その辺について、「もうこれが最後で、それ以上は無理です」と言われてしまうと、ここで話が終わってしまいますので、今後どうでしょう。さらにいろいろ協議とすり合わせをしてくださる余地というものはあると考えてよろしいでしょうか。

○新（南八王子病院）：私が申し上げる立場ではないかもしれませんが、きょう、「その話のとおりではないようなにおいがしますよ」というようなお話をいろいろいただきました。

ただ、その中で、例えば、設計図のことは、とても時間がなくて、早急に手を加えたものだけをお届けしたという次第でございまして、当然、実際に着工するまでには、書き替えがなされると思っております。

私が図面を指示したわけではありませので、その点については、何とも申し上げることはできませんが、当初、これだけの土地をお分けいただくことができたからということで、法人のほうで、どれだけのものが入れられるかという視点で、200という数字が出てきたのだらうと思っております。

そのときに私が参加していたわけではございませんが、そのように感じていた次第でありまして、「200やれ」と言われても、現場は本当に大変なわけです。

ですから、前回の会議のときにも、「段階的に増やされたらどうか」というご意見もありましたが、私どもは、スペースをいただいたので、法人に対して、「これを100にしてしまいますよ」ということは、とても言いにくいわけです。

ですので、今度、「150で」ということでいただけるのであれば、それは、2年以上かけて150まで持っていくというようなことで、先生方がその土地を監督していただいて、「これなら行けるのではないか」ということであれば、そこまで広げるということをやらせていただければ、大変ありがたいと思います。

あるいは、こちらがどこまで減らしたらいいかというのは、私の立場としてはやりにくいわけですし、当初の200というのは、無謀な数だったと思いますが、結果的に200になるのであって、120の増床のところを50減らさせていただくということは、法人の中でいろいろ努力していただいたのだと思います。

それを一気に、さらにもう30減らすとかを、もし提案していただけるのであれば、それをもとに、法人内で検討するということがやりやすくなりますので、もし先生方の中で、「おたくの法人はこのほうがいいだろう」ということであれば、たたき台としてご提案いただくというのも、一つの方策だと思います。

ただ、私の立場としては、なかなか申し上げにくいので、それは、先ほど、孫田先生から、「院長の権限はどれだけあるのか」というご質問をいただきましたが、私は経営者ではなくて、現場をお預かりしているだけでございますので、病院の運営ということに関しては、私の判断でやらせていただけますが、その最終の部分は、法人マターになるということだと思います。

いろいろ至らないところがあって、申しわけないと思っておりますが、そのところをご勘案いただければと思います。

○田村座長：平川先生、どうぞ。

○平川副会長：今度は、東京都医師会副会長の立場で少しお話ししたいと思います。

きょう、こういう会を開いていますが、こういう分科会を開くということは、ほかの地域ではなかったことだと思います。それだけ八王子は一生懸命だということを、ぜひご理解いただきたいと思います。

排除するために集まったわけではなくて、どうやって協調していくかということ。先々、一緒に仕事をしていくわけですから、そのためにこの中で、「そうか。結構話がわかるじゃないか」ということをつくりたかったのですが、きょうのお話を伺う限りは、個人的な感想ですが、ちょっと八王子と感覚が違うなというところを、たぶん皆さんお持ちだろうと思います。

前回お話ししたときに、「葬会はホワイトナイトだ。苦しい病院を救っているんだ」というお話でしたが、ホワイトナイトはそういう意味なのかと思いました。その辺のニュアンスがちょっと違うと思います。

先ほどの川崎の病院のことについては、「外国人医療に対して一石を投じた」というお話でしたが、「うまいことを言うな」と思いました。そのために、川崎市医師会も神奈川県医師会も大変なめにあったということで、迷惑をかけているわけですが、「一石を投じた」ということでは、大きな法人は考え方がすばらしいなと思いました。

ただ、八王子でそれを振りかざしてしまうと、やっぱり、中小の仲間たちというのは、そういうのは余り好きじゃないですよ、申しわけないけれども。

あなた方はそう思うかもしれないけれども、僕たちはずっと積み重なってきたことがありますので、今後、こういう会をまたやるときには、うまくやってほしいというのが、東京都医師会の立場として思います。

地域、地域の考え方がありますから、大上段に構えられてしまうと、先ほどの横山先生のお話のように、「法人はちょっと嫌だよ」ということがどんどんつくられてしまうと、それはまずいですので、うまくやっていただきたいと思います。

先ほど、八王子医師会への入会の話が出ましたが、八王子市医師会は門戸は広いです。ウェルカムです。ただし、会員の意見も聞かなければいけないし、地域の先生方の意見も聞かないと、八王子市医師会の意味がありませんので、

そういう手続きを石塚会長は進めていくと思いますので、そのときに、地域の先生方とうまくやっていただき、胸襟を開いて、会長が進めていきやすいような仕組みを、ぜひつくってほしいと思います。

それから、あと、具体的にいくつか変えていくことになるかと思いますが、例えば、先ほどの設計図の問題は、もちろんそうですよね。急きょ50減らしましたから、図面的には間に合わないと思いますが、少なくとも、「将来200床を考えているんだな」ということが見え見えになるような形はやめていただいて、「150床までできちんとやっていきたい」という図面に、早々につくり替えていただくということは、条件としてよろしいですよ。当然、今150床でやると言われているわけですから。

あと、それ以外にも、「介護医療院にしようか」とか「老健にしようか」ということがあるかもしれませんが、そのあたりについても、地元医師会と連携を深めて、同意を得ながら、もちろん、東京都さんや八王子市さんも含めて、当たり前のことですが、きちんと協調してやっていただきたいと思います。

以上のようなことで、図面については早急に、粗々で構いませんから、「150床の病院を考えている」ということで、しかも、新先生が先ほどおっしゃったように、「段階的に上げていく」というようにしていただきたいと思います。

これを反故にされてしまうと、先ほどのちゃぶ台返しになってしまいますから、ぜひその辺をきちんとやってほしいと思っています。本当に、この話をまとめたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それから、求人についても、これを見ると、できるのかなというような、すばらしいことが書いてありますが、ホームページとか求人広告については、早急に改めていただいて、無理なら無理と言っていただきたいと思います。

「そうは言ったけれども、やっぱり、それは厳しいんだ」と言ってもらったほうがいいと思いますし、やっておきながら、「やってない」ということは、非常にまずいと思います。

その2点については、東京都医師会として、これを進めていくために、八王子市医師会が動きやすくするためにも、八王子市医師会の役員の先生方が会員を説得するためにも、図面の問題と求人については、明らかにわかる形で、早

急に変えていただいて、八王子市医師会の議論が進むようにしていただきたい
と思います。

石塚先生、それでよろしいですね。

○石塚（八王子市医師会）：150床というのが、何かもう一人歩きしてしま
っていますが、ここは、もう一度考え直していただいた上で、図面を引いてい
ただいたほうが、私はよろしいと思います。

○田村座長：図面の話と、ほかの付属的な話がありましたが、新先生のご発言
の中で、「実際に八王子医師会の側から、こういうふうにしてくれればいいと
いうお話があれば、それに対応する余地がある」というふうな形で、私は今受
け取りました。

その中には、実際に150床ということで、200を150に下げましたが、
その辺も含めて、地元からのいろいろな提案に対して、受けとめていただき、
再考する余地があるというふうに取り扱ってよろしいでしょうか。

○新（南八王子病院）：「現場の立場からは、枠を決める決定権はないわけ
ですが、お預かりした中での運用の仕方は、医師会の先生方のご指導に沿ってやっ
ていくことは可能です」ということを、お約束させていただきました。

ですから、「150でもいいけない」というお考えであれば、地元の医師会と
しては、例えば、「130にしろ。それなら何とか折り合うよ」というレベル
であれば、それをいただいて、検討させていただいて、「では、140で願
いできないか」と言うかもしれませんが、そういう歩み寄りというのは、余地
があるのではないかとこのようにご理解いただければありがたいと思います。

○田村座長：法人のほうも、基本的にそういう形でいろいろ、粘り強く交渉す
るということでもよろしいのでしょうか。

○小宮（南八王子病院）：ここで、病床について、私の一存でどうこうとい
うことは言えません。経営的な部分もございまして、今回は、特に、移転、新築

という部分がありますので、そうしたところも加味した形で考えている部分も
ございます。

ですので、私は、この場では、何とも答えられないのですが、戻りましてか
ら、上席のほうにも相談したいと思っております。

○田村座長：平川先生のほうから、「具体的に話をとめるだけではなくて、ど
うしたらうまくやってもらえるかということ話し合ひましょう」というご提
案もありましたので、その道を封じないためにも、その辺を含めて、修正の申
請を出されましたが、さらにいろいろ協議をして、結論を近づけるというこ
とをしていただければよろしいかなと思う次第であります。

ここでもう一度まとめ直しても仕方がない部分がございますが、大事なこと
は、医師会も葵会さんのほうも、いい合意点を探って、今後も努力をしたいと
いうお気持ちがあるということが確認できたというふうに、きょうの会議の成
果を認めたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

○石塚（八王子市医師会）：はい。

○新（南八王子病院）：はい。

○田村座長：では、そういうことで、長時間にわたりいろいろご意見をいた
だき、関係者の方々もお付き合いいただき、ありがとうございました。

それでは、最後に、八王子市からもいらしていますので、何かご発言いた
だければと思います。よろしく申し上げます。

○古川（八王子市）：八王子市の医療保険部長の古川でございます。

先生方がおっしゃった意見ですとか、座長の田村先生がおっしゃった意見と、
本当に重なるところがありますが、市としては、葵会さんが病院を建てられる
場合は、当たり前のことですが、地域医療の推進にぜひ協力していただきたい
と思っております。

そのためには、救急とか災害医療、予防接種などを担っていただいている、地域医療の核であります八王子市医師会と、十分に協議していただきたいということを、私からも重ねてお願いしたいところでございます。

それができないと、葵会さんをご説明になっているように、「地域医療に貢献していきたい」ということをおっしゃっていただいておりますが、医師会との信頼関係が構築できないと、そこはなかなか難しいかと、私どもも思っているところです。

地域の方々にも信頼が得られるような病院に、ぜひなってほしいという思いもございませし、地域包括ケアを支えていただく側になっていただきたいと思っていますので、今後とも十分に協議していただければと思います。

○田村座長：ありがとうございました。

それでは、申請者の南八王子病院さんは、きょうの議論を踏まえた上でのご対応をお願いいたします。また、八王子市医師会も、それを踏まえた上でのご対応をしていただければありがたいと思います。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。

3. 閉 会

○千葉課長：田村先生、ありがとうございました。

最後に、事務局より事務連絡を1点だけ申し上げさせていただきます。

本日の分科会の議事録でございますが、冒頭でご説明いたしましたとおり、本会議は公開となっております。議事録につきましては、後日、東京都福祉保健局のホームページで公開させていただく予定となっておりますので、ご了解をよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、本日の分科会を終了させていただきます。長時間にわたりご議論いただき、大変ありがとうございました。

(了)